

## 子どもの発達と学童保育

寺田 進

### ◆「発達」とは

心理学では、一般に「生まれてから死ぬまでの人の心身、およびその社会的な諸関係の量的質的变化・変容」をいいます。

ここでは、「子どもの発達」について、「子ども自身が育つ主体」であり、支援員は「子どもの育ちを応援する」という立場（観点）で「話」をしたいと思います。

### ●「子どもが育つ」とは

キーワード 「あそび」「安心」「心地よさ」「自己肯定感」「自己発達欲」「育つ」

「あそび」 … 目的達成のためにする行為ではなく、そのことそのものが目的の活動

わくわく、ドキドキ、びっくり、発見、あこがれ、チャレンジ …

- ・「遊ぶ子は育つ」ということ 「あそび」の教育的側面
- ・社会性、創造力、技術、運動機能、問題解決能力、思考力、判断力、言語、空想や想像力…。知能や思考、情緒や身体の発達を促す「あそび」
- ・模倣から創造へ 達成感と共感関係（時間・空間・仲間）

「育つ」 … 育つ主体が、よりよく変化していくこと

外から情報を取り込んで内面を発展させること

- ・「育てる」と「育つ」
- ・「対人援助職」と「育つ」 私たちの仕事の基本
- ・依存と自立を行き来する成長変化と「育ち」

### ●子どもを理解する

- ・ 子どもを受け止め、わかろうとする努力 = 子どもの安心と結びついている。
- ・ 「自己肯定感」が「自己発達欲」を喚起する。
- ・ 「憶測や思い込み、あるべき子どもの姿（固定観念）から見ないで、一つひとつの事実を積み重ねながら、連続性・継続性の中で一人ひとりの子どもをとらえる」ことの重要性。
- ・ 支援員の思い先行で子どもを動かそうとしないこと。
- ・ 実践的な検証と自己研鑽を大切に

ポイント①

子どもをわかるということ と わかろうとする努力

子どもをわかろうとする努力 から はじまる ということ

それは、子どもの「安心」と深くむすびついている から …をおさえて

## 学童保育の役割と支援員の仕事（入門編）

### ◆学童保育の役割と支援員の仕事…をおさえて

●みなさんが働いている職場は？

●私たちの仕事は 「誰のためのどういう仕事か」 … という整理を

「児童館」 あそびを通じて児童（0～18 歳）の育ちを応援する施設

「学童保育」 働く親を持つ小学生の放課後の生活を継続的に保障することを通して働く親の権利と家族の生活を守る

「放課後子ども教室」 小学校施設を使い、あそび・まなび・活動を通じて児童の健全育成を図る

それぞれに目的・役割がある それを具体的に果たすのが指導員（支援員）の仕事です。

ポイント②

### ●学童保育の仕事と学童保育に通う子どもを理解する●

「学童保育の役割」

学童保育には、「共働き・母子・父子家庭の働く親をもつ小学生の放課後（学校休業日は一日）の生活を継続的に保障し、そのことを通して、親の働く権利や家族の生活を守る」という役割があります。

#### 学童保育 ミニ知識①

- ・ 学童保育は働く親たちの切実な要求から自らの手でつくられ発展してきた。
- ・ 長年、国や自治体における制度がないままに活用できる補助金をつかって共同運営されてきた歴史をもつ（東京や関西の一部地域を除く）。
- ・ 98年、学童保育は「放課後児童健全育成事業」という名称で「児童福祉法」に位置づけられ、国は近年になって、必要とするすべての地域に整備すると言い始めた。
- ・ 07年、放課後児童クラブガイドラインが策定される。（15年まで）
- ・ 12年、子ども子育て支援法が可決される。
- ・ 15年、放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準
- ・ 20年、放課後児童支援員設置の経過措置終了（放課後児童支援員必置が義務化）

### ■学童保育に通う子どもを理解する■

- ・ 働く親をもつ子どもであること。
- ・ 自分の意志（足）で通ってくる … という意味について。
  - 「親の願いと選択にもとづいて、基本的に子どもが自分の意思で通わなくてはならない」
- ・ 多くは低学年の子どもである … 「依存しつつ自立する」
- ・ 子どもから拒否されない内容づくり … という意味について。
  - 「異なる年齢の子どもたちが集団で継続した生活を送っている」
- ・ 放課後という時間の意味。本来、自由で開放され、自分の頭で考え行動すること。
  - 「放課後の生活である」
- ・ 子どもにとっての「あそび」 … という意味について。

- ・ 「生活」に内包される教育的側面について。
- ・ 子どもたちの「生活の場」としての学童保育。「生活」を「継続的に保障する」ことの意味と 「家→学校→学童保育→家」 … というリズムとして一人ひとりの子どもにとっての「生活」が定着することの大切さと「あたりまえ」ではない大変さ。

#### ■「子どもをとらえる視点」と「働きかけるときに大切にしたいこと」■

- ・ 子どもは一人ひとり違い、それぞれがかけがえのない存在である
- ・ 失敗や過ちをくりかえしながら成長・発達していく過程にある子どもたちである
- ・ 子どもの表す行動には必ず理由があり、うまく表現できなかったり、表し方も違う子どもたちである
- ・ 子どもは自ら育つ力を持った存在である

- ・ 支援員の思い先行で子どもを動かそうとしないこと。（支援員の「ねがい」と実践課題）
- ・ 「憶測や思い込み、あるべき子どもの姿（固定観念）から見ないで、一つひとつの事実を積み重ねながら、連続性・継続性の中で一人ひとりの子どもをとらえる」ことの重要性。
- ・ 全体をみる … 「…積み重ね…連続性…」と同じ視点の集合。複数の目と共有作業。スタンディングポジションではない。
- ・ 実践的な検証と自己（みんなで）研鑽を大切に
- ・ 常に見られ観察されている対象としての自覚をもつことの大切さ

### ●学童保育の生活づくり●

#### ■生活づくりとは■

- ・ 学童保育に子どもたちが毎日「家庭に帰っていくように」あたりまえに帰ってこられて、安心して過ごせる生活をつくること
- ・ 基礎的な生活の保障→安全・安心・あそび・おやつ・宿題・たのしいこと・頼りになる大人
- ・ 学童保育の実践→ 「支援員が子どもとの信頼関係を築きながら、子ども同士の仲間関係をつくり、子どもたちに安全で安心できる毎日の生活を保障し、生活内容を豊かにするという意図的な営み」
- ・ 子ども自身が生活の主体者である ＝ 子どもとつくる
- ・ 働く親を肯定的に受け止め、励ます立場で、子どもたちの育ちを応援し、子どもたちの放課後の生活環境をよりよくしていくために協力と連携を ＝ 保護者とつくる
- ・ 地域環境に応じた柔軟な生活づくりの視点

#### ■安全と健康をまもる■ ■一日の生活のながれ■ ■保育計画■ ■とりくみ・行事■

#### ■子どもとつくる・保護者とつくる■ ■個々の学童保育の条件に応じた柔軟な生活づくり■

#### ■ 特別に支援が必要な児童 ■

- ・ 発達障害や知的障害、身体的な障害などがあり、特別に支援が必要な児童のこと
- ・ 診断名が特定されていない児童 …
- ・ 「障害」は同じ診断名でも程度や症状は実にさまざま … だから
- ・ 保護者、専門機関との連携、等

#### ■ 要保護児童ってどんな児童？ ■

- ・ 虐待をうけているまたはうたがわれる児童で保護を要する児童
- ・ 問題状況を解決していく一義的責任は地方自治体にある…要保護児童対策連絡協議会、等

## ■ 個人情報・プライバシーの保護と支援員の守秘義務 ■

### ●子どもを守る

- ・子どもの利益をまもるということ
- ・やらなきゃいけないこと・やってはいけないこと
- ・かならずあなたを守るよ（見捨てたりしない：裏切らない）＝信頼できるおとな
- ・個人情報保護と守秘義務（第2種社会福祉事業従事者の義務）

### ●全体を見るということ

子どもたちのすべてを捉えることはできない だから …

複数の目で捉える 共有する 継続性連続性の中で捉える 関係性の中で捉える  
一人ひとり、一つひとつの事実を積み重ねて 一定期間をふりかえる（検証する）  
そこから「子ども」「子どもたち」を捉える … 結果、全体がみえてくる？

ポイント③

### ●職員間の連携 お互いの声をききあう大切さ

一人ひとりの子どもが違うように支援員も一人ひとり違う（とらえ方、感じ方、表現の仕方…）  
私たちの仕事は、基本的にチームプレー（コミュニケーション能力と対応能力との結合）で成り立っている／連携するとはどういうことか（目的達成のために心をあわせ力をあわせる＝協同）  
関心を持って アンテナをみがいて … 気づく・とらえる・伝える … 共有する

### ●困難事例とは

困難事例 … だれが困難なのか 何が困難なのか / 「私が大変！」と思っている人いませんか？ 要支援児童（特別支援児童）と要保護児童のこと

### ●子どもを見守る 伴走型支援

伴走型って何？ どういうこと？ 漫然と見ている ただ近くにいる とのちがい

### ●保護者（たち）と子ども（たち）の生活を伝えあう

とりわけ学童保育や保育所は、保護者から子どものいのちと生活を預かっている  
ありとあらゆる手をつかって保護者に子どもの様子を伝えるのが仕事  
不安 → 安心 → とともに育む（子どもたちの生活や育ちを応援する主体になる）

ポイント④

### ●だから記録は重要！

記憶は消える 事実を記録する 書くことにこだわる 言語化する＝意識化する 思ったことも感じたことも事実 伝わる表現 たのしい・うれしい・くやしい…共感的理解の立場に立つということ 実践記録を書きましょう 実践記録をもとに実践検討会をひらきましょう

（実践記録とは…問題意識・課題意識を持ち記録をもとに一定期間をふりかえりつづる、創作ではない物語）「よい仕事」の追及と「記録」の重要性 その理由 → 誰のためのどういう仕事か

### ●実務

実務は すべて 役割を具体的に果たすこと につながっている  
子ども・保護者から学ぶ 仲間の実践から学ぶ 自分で学ぶ 仲間と学ぶ

## 学童保育の役割と支援員の仕事（実務編）

### ●実務とは何か

役割を具体的に果たす → 支援員の仕事（実践） → そのすべてを支えるのが実務

### ●子ども（たち）の命と生活をあずかる

出欠簿はなぜつけるのか / 安全と安心の関係 / 救命救急法・応急救護 / くすり

### ●生活を組み立てる 生活をつくる（生活づくり）

ストレスを少なく メリハリのある生活 = 子ども自身がわかる（生活の見通し）  
近未来的な予測を子どもに与える

### ●子ども（たち）の生活を保護者と伝えあう

連絡帳 おたより 個人面談 保護者会（父母会） お迎えに来たとき …

非要求的で継続した伝えあいを！

発信ツールはひとつじゃない 子ども（たち）の生活を保護者へ届ける = 重要な仕事

### ●子ども（たち）の生活や成長の記録

日誌 個人記録 メモ

### ●おやつ準備

補食としてのおやつ たのしみとしてのおやつ

### ●あそびや活動の準備・研究

生活をゆたかにしていく「あそび」「活動」 ≠ あそびを教える あそばせる  
ピアノは弾けなくてもだいじょうぶ でも、引き出しは多いほうがいい

### ●保育計画の作成

保育計画と行事計画のちがい

### ●学校や地域との連携

学級担任とつながる 地域とつながる 自分たちだけでやろうとしない

### ●行政との連携

入退所にかかわる事務

事故報告 通告義務